

# 組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： 国際センター  
(H26.7.1～「グローバル・パートナーズ」)

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>自己評価</b>
①-1 目標	\
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>②研究領域</b>	<b>自己評価</b>
②-1 目標	\
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>自己評価</b>
③-1 目標 ・学外他機関と連携して国際貢献事業の実施に協力する。 ・広く国際理解を推進するため、国際交流・国際貢献に関する講演会を開催する。	<p>・国際協力機構(JICA)の支援を得て、国立六大学国際連携機構によるミャンマー医療協力プロジェクト(主幹校は岡山大学)及びミャンマー工学系人材育成プロジェクト(主幹校は長崎大学)を引き続き実施した。また、ミャンマーとの学術研究交流等を円滑に進めるため、平成27年2月、特定非営利活動法人ミャンマー医療人材育成支援協会と連携協定を締結した。</p> <p>・広く国際理解を推進するため、5月に、経済協力開発機構(OECD)の高橋しのぶ氏による講演会と、オーストラリア大使ブルース・ミラー氏による講演会を、それぞれ開催した。6月には、神戸・大阪米国総領事館のベンジャミン・アボット副領事による「アメリカ留学フェア」、AMDА社会開発機構の松本千穂氏による講演会、オーストラリア領事館の富永さおり商務官による「留学セミナー」をそれぞれ開催した。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<b>④センター業務</b>	<b>自己評価</b>
④-1 目標 ・国立六大学国際連携機構とAUN(ASEAN 大学連合)とのコンソーシアム型交流事業の更なる展開を図る。 ・優秀な留学生の確保のため、海外事務所、留学フェア等を活用し、広報活動の強化を図る。 ・協定校の新規開拓を行うとともに、短期留学プログラム・海外語学研修の充実を図る。 ・卒業留学生のネットワーク化を図るため、国際同窓会支部の立ち上げを支援する。 ・国際交流協定の締結業務の円滑な執行を図る。	<p>・国立六大学国際連携機構とAUN(ASEAN大学連合)の交流の一環として、8月に、六大学の学生を対象として、AUN・チュロンコン大学等でのサマースクールを実施した。また、AUNとのコンソーシアム型交流事業の更なる展開を図るため、AUNを核としたASEAN+3 UNet(ASEAN諸国の大学に日本、中国、韓国の10大学を加えたネットワーク)への参加を表明し、11月の学長会議(六大学はオブザーバー参加)において仮承認された。</p> <p>・国立大学間の連携体制等を利用した留学希望者への情報提供活動として、5月に中国・首都師範大学で開催された留学フェアに、中国地区国立大学(鳥取、島根、岡山、広島、山口)が合同で参加した。また、11月に中国・東北師範大学及び中国赴日本国留学生予備学校で開催された留学フェアには、国立六大学(千葉、金沢、新潟、岡山、長崎、熊本)が合同で参加したほか、同校に設置する本学の海外事務所を国立六大学で共用化したことを契機に、通常の留学フェアとは別に国立六大学独自の留学説明会も開催し、中国から日本への学生派遣の一大拠点である中国赴日本国留学生予備学校の学生を中心に、約70名の参加者を集めた。さらに、文部科学省の留学コーディネーター配置事業(ミャンマー)に国立六大学を代表して岡山大学が採択されたことを受けて、12月にミャンマー国において、合同留学フェアを開催した。</p> <p>岡山大学長春事務所の活動として、10月に、同地で第1回中国東北三省日本語スピーチコンテストを開催し、東北三省の26大学から31名の日本語学科の学生が応募した。</p> <p>交流協定締結校を対象とする情報提供活動としては、5月に中国・上海理工大学や大連工業大学において、「大学院予備教育特別コース」に関する説明会を開催した。平成27年3月には、中国・同濟大学で本学単独の留学フェアを開催した。「大学院予備教育特別コース」と「短期留学受入プログラム(3+1)」は、平成26年度にグローバル・パートナーズが新たに開設したコースであるが、積極的に広報活動を展開した結果、平成26年度の受入れ学生数は、合計28名であった。</p> <p>優秀な留学生確保に向けて岡山大学国際同窓会との協力関係を強化するため、国際同窓会の海外支部の一部等を、岡山大学グローバル・パートナーズ国際連携所として認定し、所要経費の一部を大学が負担することにより、岡山大学の広報活動に一層積極的に協力していただくこととした。平成26年10月、ミャンマー、インドネシアなど7か国11支部を、初の国際連携所として認定した。</p> <p>・平成26年度中に、ベトナム、フィリピン、カンボジア、スペイン、ドイツ、トルコ、カナダなど、11か国18大学・研究所と新たに大学間又は部局間の交流協定を締結し、さらに欧米の大学教員と交渉を進め、交流協定の締結準備段階にまで至った。交換留学以外では、カナダ・アルバータ大学への私費正規留学をさらに活発化(平成25年度6名、平成26年度8名)させたほか、他の英語圏地域においても、協定校に交換留学生に加えて私費留学生を派遣するなど、多様な留学機会の提供に努めた。</p> <p>海外語学研修は、夏期に5コース、春期に2コースを実施した。また、平成27年3月、ミャンマースタディーツアーとカンボジアスタディーツアーを実施した。</p> <p>平成26年度の海外派遣学生は、EPOK35名、海外語学研修144名、スタディーツアー26名、私費正規留学8名の合計213名であった。</p> <p>・卒業留学生のネットワーク化を図るため、国際同窓会支部の立ち上げを支援し、平成26年度中にミャンマー支部、ケニア支部など9か国12支部(拠点)を設置した。</p>
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ・国際センターへ留学生を30名程度受け入れる。 ・EPOK(短期留学プログラム)協定校を新たに5校以上開拓する。 ・国際センターが実施する短期留学プログラム・語学研修により、日本人学生を150名程度海外へ派遣する。 ・国際同窓会支部7カ所程度の立ち上げを支援する。	
<b>【総括記述欄】</b>	
特記事項なし。	